

グローバル通信

長崎県立口加高等学校GLコース 令和2年10月19日

グローバルコース3年栗田 悠衣さん 令和2年南島原市表彰特別功労（文化）を受賞



令和2年10月18日（日）ありえコレジヨホールにて、グローバルコース3年の栗田悠衣さんが「令和2年南島原市表彰 特別功労（文化）」として表彰されました。

昨年度、「第66回国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール中央大会」で文部科学大臣賞を受賞し、それを受けての表彰となりました。



また、栗田さんは今年3月にニューヨーク国連本部とのオンラインセッションに参加しており、その感想文が「国連ジャーナル秋号2020」に掲載されました。感想文は以下に掲載しています。

【国連ジャーナルに掲載された栗田さんの感想文】

お忙しい中私たちのために時間を割き、様々なことを教えていただきありがとうございました。この機会を設けていただいたことで国連や世界での問題について知り、考えることができました。

私は、発表した弁論の中で、「世界での当たり前は、私の町の当たり前ではない」ことを伝えています。今回のセッションでも取り上げられていた貧困、格差、教育、虐待などの問題は、国家間・地域間・個人間の当たりの違いによって生じるものだと思います。取り組むべき問題の規模が大きければ大きいほど、当たり前を統一する必要性が増します。私は、国連が多分野に渡り様々なそしてたくさんの活動を行っており、それが当たりの統一に繋がるのではないかと、このセッションで感じました。

国連の行動力、発信力をより強いものにし、より早く問題を解決するために、若い力を信じるべきだと教えてくださいました。私はそこで初めて国連が若い世代、私たちの力を必要としていることを知りました。少なくともこのセッションに参加した高校生、中学生はより良い社会のために何ができるかを考えています。このような地球規模の問題を自分事として考える若者が一人でも多くなり、国連と私たちが「協力」していくことが重要になってくると、このセッションで最も強く感じました。

なぜなら、私たちは前例のない困難に直面しているからです。まさに今必要なのが「協力」ではないでしょうか。そこで、私たちが最初に行うべきことは周囲の人に自分の考えや意見を伝え、協力する仲間を増やす、「仲間づくり」です。世界規模の問題という大きな敵と戦うためには強い絆や連携が必要です。国連の皆さんは、私たち若者の純粋な発想と新しい力に期待しているとおっしゃいました。前例を知らない私たち若者だからこそ、まっすぐに問題の核心部分を見つめ、協働し、それに対する対策を新しい視点から打ち立てることができると思います。

私はSDGsが掲げる“誰一人取り残さない”という響きが好きです。“誰一人取り残さない”ためには国連の活動＋ α が必要だと思っています。＋ α は私たち若者の役目です。国連の活動と私たちの力が合わさった時、“誰一人取り残さない”状態を創ることができると思います。

今回はニューヨークの国連本部に行けなくて残念でしたが、このような機会をつくってくださった皆さんに感謝を伝えたいです。本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

